

西宮上ヶ原キャンパス講座

<人生 100 年時代を豊かに生きる>

無形文化遺産と現代社会

— <山・鉾・屋台>・<来訪神>・<和食> を中心に —

○講師プロフィール

島村 恭則(しまむら たかのり)

関西学院大学社会学部教授・副学部長。

筑波大学大学院博士課程歴史・人類学研究科単位取得退学。文学博士。

国立歴史民俗博物館文部教官、韓国・翰林大学人文学部客員教授、東京大学大学院総合文化研究科客員教授などを歴任。日本民俗学会理事・評議員(第30期・31期)。

著書に、『<生きる方法>の民俗誌』(関西学院大学出版会、2010年)、『日本より怖い韓国の怪談』(河出書房新社、2003年)、編著に『引揚者の戦後』(新曜社、2013年)、共編著に、『民俗学読本』(晃洋書房、2020年)などがある。

○講義概要

無形文化遺産とは、ユネスコ(国連教育科学文化機関)が制定し、2006年に発効した「無形文化遺産の保護に関する条約」にもとづく概念で、「慣習、描写、表現、知識及び技術並びにそれらに関連する器具、物品、加工品及び文化的空間であって、社会、集団及び場合によっては個人が自己の文化遺産の一部として認めるもの」のことをいう。「世界文化遺産」が<有形>の文化を対象としているのに対し、無形文化遺産は、<無形>の文化を対象としている点に大きな特徴がある。

本講義では、日本がユネスコに申請した無形文化遺産の中から、<山・鉾・屋台>(2016年登録)、<来訪神>(2018年登録)、<和食>(2013年登録)を事例として取り上げ、無形文化遺産の特質、意義、課題などについて考える。

○参考文献等

『文化遺産の世界』第28号、特集「ユネスコ無形文化遺産『山・鉾・屋台行事』」、2017年、電子版。

<https://www.isan-no-sekai.jp/list/vol28>

『文化遺産の世界』第34号、特集「ユネスコ無形文化遺産『来訪神:仮面・仮装の神々』」、2019年、電子版。

<https://www.isan-no-sekai.jp/list/vol34>

母親と現代社会

○講師プロフィール

村田 泰子(むらた やすこ)

関西学院大学社会学部・社会学研究科教授(家族社会学・ジェンダー論)、京都大学医学部人間科学系専攻(助産学)非常勤講師、兵庫県教育委員会教育委員。

岡山県岡山市出身。大阪外国語大学(現大阪大学外国語学部)を卒業後、イギリスランカスター大学への留学を経て、2007年1月、京都大学文学研究科行動文化学専攻社会学専修にて博士号取得。日本学

術振興会特別研究員、京都大学などの非常勤講師を経て、2009年4月に関学に着任。

主著に井上俊・伊藤公雄編『社会学ベーシックス5 近代家族とジェンダー』（世界思想社、2010年）、盛山和夫ほか編『社会学入門』（ミネルヴァ書房、2017年）など。

○講義概要

昨今の母親について、「子育てができない」、「ダメになった」などの声を聞くことがあります。果たして現代の母親は、むかしと比べ、本当に子育てができなくなったのでしょうか。現代の母親が子育てにおいて困難を感じているとすれば、それは何に起因する、どのような困難なのでしょう。本講義では、個人としての母親ではなく、母親業の規範や育児ネットワークといった社会の側の変化に目を向け、考えます。

○参考文献等

落合恵美子『21世紀家族へ』（有斐閣、2004年）

落合恵美子『近代家族の曲がり角』（角川書店、2000年）

科学技術と現代社会

○講師プロフィール

立石 裕二(たていし ゆうじ)

関西学院大学社会学部教授。専門は科学技術社会学、環境社会学、リスクの社会学。主な著作は、『環境問題の科学社会学』（世界思想社）、「環境問題において不確実性をいかに議論すべきか：福島第一原子力発電所事故後の放射線被曝問題を事例として」（<https://doi.org/10.4057/jsr.66.412>）など。

○講義概要

科学技術がいくら発展しても、事故がなくなるのは何故でしょうか？この講義では、航空機、宇宙開発、車の自動運転などを例にして考えていきます。こうした事故の原因を探っていくと、そこには、人と人の関係の問題、集団・組織の問題、そして社会の問題が複雑にからみ合っています。素人目にも明らかな危険性に対して、専門家だけが目を背けていたり、たまたま失敗した人に全責任をおしつけて、失敗に追い込んだ原因は放置されたままだったり、安全のためにルールを作っても、たちまち守られなくなったり、安全が大事といいながら、結局は安いほうの商品ばかりが売れたり…。新しいものがほしい、便利に暮らしたいと私たちが願う限り、科学技術に由来するリスクはゼロにはなりません。その中で、私たちがリスクにどう向き合っていくべきかを考えたいと思います。

○参考文献等

特になし。